

# 水の 話

FujiClean NEWS

2021  
Hello New Year!!

No. 190

[特集]

## 暮らしの中に息づく 松江の茶の湯文化

「茶どころ」松江をつくった大名茶人・松平不昧公<sup>ふまいこう</sup>の足跡

[フジクリーンレポート]

オーストラリアの新基準と現地ユーザーの声に応えた  
新製品『FujiClean ACE1200』が発売!



# 暮らしの中に息づく 松江の茶の湯文化

## 「茶どころ」松江をつくった 大名茶人・松平不昧公の足跡

憩いのひとときに、サッと抹茶を点てて和菓子をつまむ。

松江は、日常の中で抹茶を嗜む風習が残る日本有数の茶どころです。

これは、「お茶の殿様」として知られる松平不昧公の功績によって根づいたもの。

茶の湯はもちろん、和菓子、陶芸、建築、工芸など

不昧公の影響を受けた多くの文化や産業が、松江の「今」に息づいています。

松江城を囲む堀川では、小船で巡る「堀川めぐり」が人気



松平治郷(不昧公)像

## 水の都の暮らしに根づいた、大らかな茶の湯文化。

### 市民の日常に寄り添う松江独自の茶の湯文化

神々の郷として崇められてきた出雲の国・島根県の東部に位置する松江市。宍道湖と中海に挟まれ、街はその2つを結ぶ運河や水堀が張り巡らされた『水の都』として知られています。また国宝・松江城を中心に、かつて水運を生かした多くの産業で栄えた城下町としての風情を今に残しています。そんな風光明媚な景観と歴史を感じさせる松江の代表的な文化の一つに「茶の湯」が挙げられます。京都や金沢と並ぶ、茶どころ・菓子どころとして知られているのははじめ、1世帯あたりの緑茶の消費量、人口10万人あたりの和菓子店数がともに全国トップクラスなど、データにも裏付けられています。松江の茶の湯文化の特長は、型苦しい作法や流派にこだわらずに抹茶を飲む風習が市民に定着しているところ。松江の人々にとって茶の湯は、稽古事や教養

といった敷居の高いものではなく、寝覚めや3時のおやつ、夕食後などに、ポットからお湯を注いでさらさら茶を点て、気軽に嗜むものであり、日常の暮らしの風景に自然と溶け込んでいるのです。

### 7代藩主・松平治郷による財政改革

松江に茶の湯文化をもたらした人物として知られるのが、大名茶人として名高い松江藩松平家7代藩主の松平治郷です。「不昧公」の名でも知られる治郷は、1751(宝暦元)年に江戸赤坂の藩邸で生誕しました。当時の松江藩は大変な財政難に陥っており、治郷の父・宗衍は産業の振興や新田開発などによって藩財政の改革に努めていました。しかし度重なる天災や幕府から命じられた比叡山延暦寺の修復費用のために成果は上がらず、1767(明和4)年、17歳になった

治郷に後を託すことにしました。

藩主となった治郷は、家老に朝日丹波郷保を起用し、「御立派の改革」と呼ばれる財政再建策を進めさせました。改革の一つである治水事業では、当時、洪水を繰り返していた斐伊川の氾濫を防ぐため、宍道湖から日本海に直接注ぐ新しい排水路として、人工河川の佐蛇川を開削。10年後には商船が航行できるように川幅を拡張し、新たな水運ルートを完成させました。治水事業によって稲作を安定させた一方で、ロウソクの原料となるハゼの実や綿花の栽培にも着手。中でも、非常に貴重で栽培が難しいとされてきた薬用人参(朝鮮人参)の量産やたたら製鉄による砂鉄の増産は大きく成功し、危機的だった松江藩の財政は改善していきました。当時、全国各地の藩が財政難で苦しんでいた状況下で、松江藩は全国有数の裕福な藩へと成長していきました。



1611(慶長16)年に堀尾吉晴によって築城された国宝・松江城



松江市街地を流れる大橋川の最も宍道湖側に架かる宍道湖大橋

### DATA

2020年9月末現在

松江市  
(人口200,965人 90,846世帯)

松江市は、島根県の県庁所在地であり、北部に大山隠岐国立公園に指定されている島根半島、中央部に中海・宍道湖、南部には山地を有する水と緑に囲まれた自然豊かな地域です。江戸時代には城下町として栄え、美しい景色と古くからの歴史、文化が息づいています。1951(昭和26)年に国際文化観光都市に指定され、観光や国際文化の振興にも取り組んでいます。

### 治郷から不昧へ

「不昧」の号は、松平治郷が江戸天眞寺で禪の修行を始めた2年後、21歳の時に9代目住職である大巖宗碩から授けられました。「意志が強く、物欲に惑わされることなく、身を減ぼさない」という意味の「不落不昧」から名付けられたといわれています。治郷はこれを大変気に入り、晩年には「不昧」を公称し、現在に至っても多くの人々に「不昧さん」「不昧公」と呼ばれ親しまれています。



# 茶の湯を愛したお殿様が残した、数々の功績。

## 茶道と禅学を学び、 新たな茶道観を確立した『不味流』

松江藩をよみがえらせた治郷は、優れた政治家であるだけでなく、豊かな教養人でもありました。治郷は幼少期から書道や仏道、弓、槍などを身につけていましたが、少々気性の激しいことを案じた家臣らが茶を習わせました。これが茶の湯を学ぶきっかけとなります。藩主になった翌年からは本格的に石州流茶道を学び、19歳から禅学を学び始めると、21歳のときに大巖宗碩和尚から「不味」の号を与えられました。次第に茶道と禅学を深く結びつけた自らの茶道観を確立し、独自の流儀『不味流』をたてるほどの茶人となっていきます。

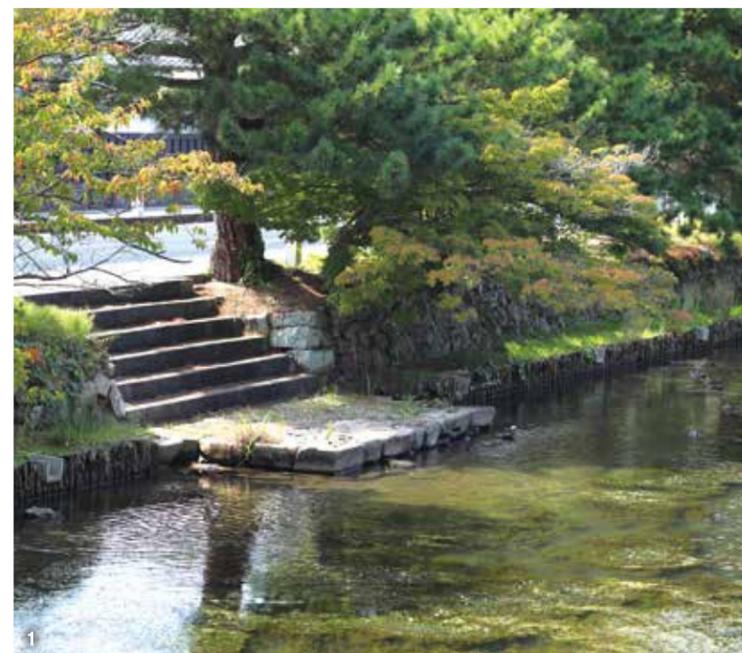
「茶の湯とはただ湯をわかし茶を点てて  
のむばかりなる事と知るべし」

これは、千利休の句ですが、治郷が20歳の時の著書『贅言』に記されており、「茶の湯は、湯を沸かし、茶を点てただ飲めばいい。これこそが茶の湯の本質である」と紹介しています。治郷の茶道哲学ともいべき境地は、禅の心と茶の湯は一体のもの（茶禅一味）と考え、利休流の質素で清楚な草庵の侘び茶を目指すものでした。当時の茶道は華美に走り、道具に凝り、世間から良く思われていませんでしたが、無駄のない簡素と思われる不味流の点前は、やがて江戸でも雲州流と呼ばれて評判となり、松江藩においても、茶頭藤井長古や家老有澤家によって広められていきました。治郷は、1806

(文化3)年に隠居すると、江戸の大崎に移り57歳で「不味」を公称しました。禅と茶の世界に浸った余生を送り、1818(文政元)年、68歳で死去しました。

## 茶道具の価値を見定め、美術工芸品の振興に寄与

茶の湯に執心した不味公(治郷)は、茶道具の名品の保護と収集にも尽力しています。これは、名物道具をいたずらに買い集めたわけではなく、「名物道具は日本の宝であり、優れた美術品を散逸させてはならない」という思いから、さまざまな事情で手放される道具類を、自身で金銭的にやりくりできる範囲内で購入していたようです。そうした茶器研究で得た知識や目利きの技術が、後世につながる大きな成果となって現れているのが、『古今名物類聚』です。39歳から9年間を費やして18巻にまとめ上げた『古今名物類聚』は、名物茶器の格付けを行い「宝物」「大名物」「中興名物」などに分類、さらに1,100点にもおよぶ茶道具の図版と寸法を記載しています。また自身が収集した多くの茶道具についても、跡取りである斉恒に譲る際に遺産目録のつもりで書き遺した『道具帖』において体系的に分類されており、この目録が後に『雲州蔵帳』と呼ばれる名物記の基となっています。『雲州蔵帳』に掲載された茶道具は現代でも高く評価され、多くが全国の美術館や博物館に所蔵されていることから、不味公の高い目利き力を垣間見ることができます。



1.松江城内堀には、かつて物資を運搬する船が荷揚げに使った「灘」と呼ばれる石段が残り、水運で栄えた当時の様子をうかがうことができます



2.月照寺にある不味公の廟 3.月照寺の参道入口には、今でも茶の湯に使われている不味公愛用の名水が湧いています HP <https://www.gesshoji-matsue.com/>



4.不味公が執筆した茶道具の解説書『古今名物類聚』(松江歴史館 展示より) 5.「若草」を復刻させた老舗和菓子店・彩雲堂 HP <https://www.saiundo.co.jp/> 6.若草  
7.不味公によって建てられた茶室・明々庵 HP <http://www.meimeian.jp/>  
8.松江歴史館内の喫茶室では、現代の名工・伊丹二夫氏の和菓子実演が見学できます HP <https://matsu-reki.jp/>

## 多彩な産業に影響を与えた不味公の美意識

不味公は、茶道具を集めただけでなく、ひいきにしていた陶工や漆工にいろいろな茶道具を作らせ、多くの名工を育てました。茶席に用いられる菓子の職人や茶室建築の匠を養成し、不味公によって造られた茶室は、1779(安永8)年に松江藩家老有澤式善の屋敷内に建てられた「明々庵」、国の重要文化財である「菅田庵」などが現在も保存されています。

不味公の茶道芸術を通して醸成された建築や美術工芸には、いずれも独自の美意識が示されています。これは、江戸後期のデカダンス(退廃的・虚無的)な風潮の中で、不味公が「茶の湯とは何か?」を追求し確立した美意識であり、上品の中に少し下品がある、渋みと甘みの調和がとれている、といったバランス重視の「粋」であったと考えられています。不味公の美意識によって育成された美術工芸、和菓子、料理などは、のちに「不味公好み」と呼ばれ、松江の文化・産業の礎となっていきました。

## 時代を超えて今に伝わる「不味公好み」の和菓子

「不味公好み」として知られる代表的なものに、和菓子があります。茶道に欠かせないものとして和菓子にも力を入れ

ていた不味公は、参勤交代の度に菓子職人を江戸に連れていき作り方を勉強させていました。好みの菓子は「口の中でよく溶け、甘さがいつまでも残らず、茶の味に合うもの」であり、さらに「四季折々や花鳥風月など優雅な趣向を凝らしたもの」を求めました。そして茶会に用いた百近くもの和菓子の記録を、茶道手引書としてまとめた『茶事十二月』に残しています。

松江の三大銘菓として現在も親しまれている「若草」「山川」「菜種の里」は、不味公好みを代表する和菓子であり、不味公が詠んだ和歌に因んだ名前がつけられています。これらの和菓子は明治維新の頃に一旦製造技術が途絶えましたが、明治初め頃から多くの和菓子店が開業したことに伴い、残されていた製法記録や茶人からの聞き取りなどを基に復刻されました。例えば、ふっくらとした求肥に薄緑色の寒梅粉をまぶした「若草」は、1874(明治7)年創業した彩雲堂の初代・山口善右衛門が、古老や茶人を訪ね歩き、文献を読み解いて明治中頃に再現・復刻されました。こうして職人の技と研究によって時代を超えて再現された伝統の銘菓は、今も多くの人に愛され続け、松江は日本屈指の「菓子どころ」としてもその名を知られるようになったのです。

# お茶のまちで「おもてなしの心」をつなぐ文化の継承。

## 200年の歴史をつなぎ、 松江に根づいた茶の湯文化

不昧公によって江戸や京都から持ち込まれた茶の湯文化は、大名や武家階級だけでなく裕福な町人層にまで広がっていきました。武家や都会、そして不昧公への尊敬も相まって、茶の湯は松江の人々の憧れや羨望の対象となっていたようです。江戸時代後期になると、茶は贅沢であるという理由から町人の茶室禁止令が出されましたが、自宅に「隠れ茶室」を造って密かに茶の湯を楽しむ者もいました。そして明治維新を迎え、庶民も茶が飲めるようになると、裾野は一気に広がり、茶商、道具商、和菓子店、料理店といった茶関連の商業が花開いていきます。現在、天神町商店街に本店を構える中村茶舗も、初代・中村末吉が京都宇治の茶問屋「中村藤吉本店」から分家し、1884(明治17)年に創業しまし

た。元々は京都から行商に訪れていましたが、松江はお茶が売れると判断し、茶商を開業したのが始まりです。

その流れは現代まで続き、多くの市民が「不昧公」「不昧様」と不昧公を尊称し、不昧公の広めた茶の湯文化を脈々と受け継いでいます。全国的には、煎茶が一般的な飲み物として親しまれ、抹茶は女性の教養や稽古事へと変わっていったのに対して、松江では煎茶も抹茶も変わらず家庭の中で気軽に飲まれる独自の歴史をたどり、「お茶のまち」という魅力が形成されたのです。

## 暦の中で茶の湯を再認識する「茶の湯の日」

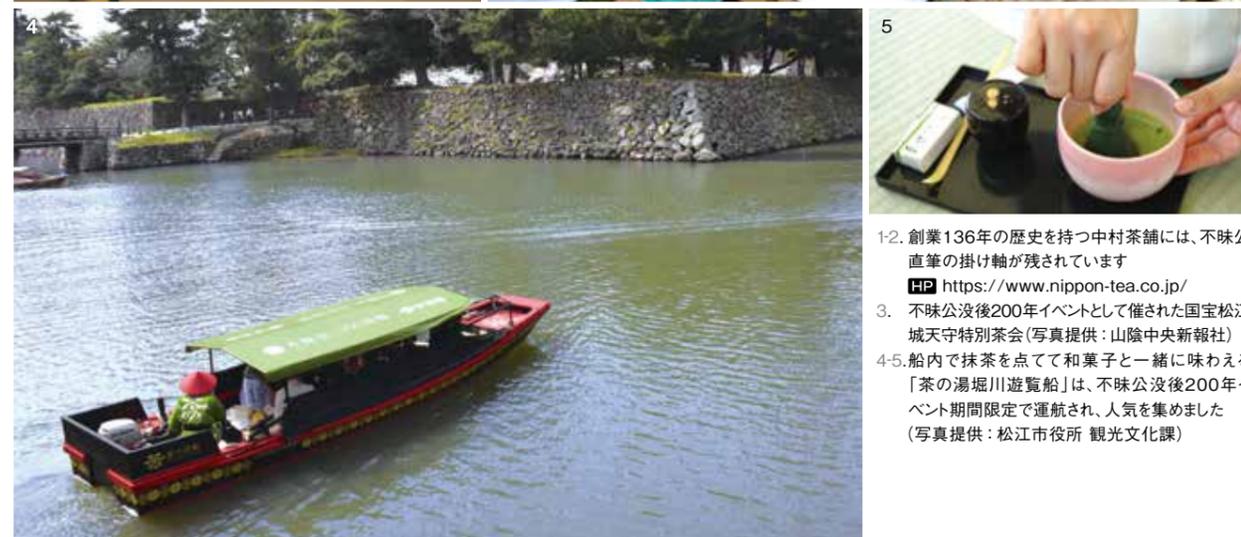
近年では、茶の湯は観光面でも大きな役割を担い、街には観光客が気軽に抹茶を楽しめる茶寮や施設が点在しています。不昧公没後200年を迎えた2018(平成30)年から

2019(令和元)年にかけては官民協働による「不昧公200年祭」が開催され、この期間には国宝・松江城天守で特別茶会が催されたほか、不昧公が蒐集した茶道具等の記念展示、記念和菓子の販売、茶の湯が楽しめる遊覧船などが人気を集めました。さらに2019年4月1日に制定された「松江市茶の湯条例」では、不昧公の命日である4月24日を「茶の湯の日」と決めました。これは、暦の中で気軽に抹茶や和菓子に触れる機会をつくり、未来へつなげていきたいと考えられたもので、この日は市内の小中学校で抹茶を使った給食が出たり、お茶屋さんやスーパーで抹茶の特売が行われるなど、市民が日々の生活の中で茶の湯を感じるきっかけとなっています。気負わず、気取らず、日常に寄り添う松江の茶の湯文化は、この街を訪れる人にもホッと一息つきたくするような時間を与えてくれます。「亭主も客も、お互いを思

いやり、心を通わせることが何よりも大切」と説いた不昧公の教えは、松江市民の「おもてなしの心」となって広がっています。

[取材協力・撮影協力・写真提供・資料提供]  
○松江市 観光振興部 観光文化課  
○島根県茶道連盟

[参考資料]  
○お茶の殿様 松平不昧公 一不昧の歩んだ道と伝えられた文化遺産- (石井 悠 著/ハーベスト出版 発行)  
○今に生きる不昧 一没後200年記念- (山陰中央新報社 編集・発行)  
○茶人叢書 松平不昧 名物に懸けた大名茶人 (木塚 久仁子 著/株式会社 宮帯出版社 発行)  
○茶人たちの日本文化史(谷 晃 著/株式会社 講談社 発行)  
○シリーズ藩物語 松江藩(石井 悠 著/株式会社 現代書館)  
○江戸時代 人づくり風土記(32)島根-ふるさとの人と知恵 (一般社団法人 農山漁村文化協会 企画・発行)



1-2. 創業136年の歴史を持つ中村茶舗には、不昧公直筆の掛け軸が残されています  
HP <https://www.nippon-tea.co.jp/>  
3. 不昧公没後200年イベントとして催された国宝松江城天守特別茶会(写真提供:山陰中央新報社)  
4-5. 船内で抹茶を点てて和菓子と一緒に味わえる「茶の湯堀川遊覧船」は、不昧公没後200年イベント期間限定で運航され、人気を集めました(写真提供:松江市役所 観光文化課)



## 自然の恵みを栄養分として吸収した、 美味しい健康食材「大和しじみ」

宍道湖産の大和しじみは、日本一の漁獲量を誇り、松江市の名産として全国に知られています。宍道湖は、海水と淡水が混ざり合う汽水湖で、大和しじみという品種は汽水域にのみ生育します。河川から得られるミネラルと日本海由来の海水によって、しじみの旨味成分が増加。大粒で肉厚、濃厚な旨味は、宍道湖の水環境ならではの恵みといえるでしょう。昔ながらのしじみ料理といえば、凝縮された栄養分をしじみと味わえる「しじみ汁」。昆布や出汁は入れずに、しじみを水に入れた状態で火にかけるだけで、しじみの旨味をたっぷりと堪能できます。約300名のしじみ漁業者による漁の風景は、宍道湖の風物詩とされ、またしじみの資源が枯渇しないように漁業者が自主的に湖の環境改善や資源管理を実施しています。

お土産もしじみ汁も、こちらどうぞ!

島根県物産観光館  
(島根ふるさと館内)  
島根県松江市殿町191

Tel 0852-22-5758  
営業時間 9:00~18:00  
定休日 年中無休(※12/31・1/1除く)  
駐車場 無料駐車場あり  
(有料駐車場割引サービスあり)  
アクセス JR松江駅からレイクラインバス10分、  
松江城(大手前)下車、徒歩約1分  
Web <https://www.shimane-bussan.or.jp/sb/>



松江城の近くに位置する観光館。海産物や和菓子など、島根の物産を豊富に取り揃えています。2階にある「カフェ・コンセルボ」で「しじみ汁」を味わうことができます。大和しじみは、アミノ酸や天然ミネラルを含み、特に現代人に不足しがちなカルシウム、鉄、ビタミンB12が豊富で自然の健康食品としても注目されています。お土産は、1・2階の銘品コーナーでどうぞ。



## オーストラリアの新基準と現地ユーザーの声に応えた新製品『FujiClean ACE1200』が発売!

### オーストラリアの浄化槽基準の改定に伴い、開発がスタート。

オーストラリアは、人口約2,500万人、国土面積約769万平方キロメートル、たぐい稀な自然環境に恵まれていることから環境意識が高い国といわれています。フジクリーンでは、初の海外拠点として2008(平成20)年にオーストラリアへ進出して以来、少しずつ現地での認知や信用を確立し、順調に販売数を伸ばしてきました。そして2017(平成29)年2月に、浄化槽基準の改定が発表されると、フジクリーンは、これまで販売を展開してきたCE1500EXを改良し、さらに厳しい新基準に対応した新製品の開発をスタートさせました。多くの課題をクリアし、新基準を満たすための試験に合格後、各州認証を取得し、2020(令和2)年から新製品『FujiClean ACE1200』の販売を開始しています。

### FujiClean ACE 1200



#### 特長

- 高度処理クラス(BOD10mg/L以下 SS10mg/L以下など)を満たす処理性能
- 配送や施工がしやすいコンパクト設計
- ランニングコストを抑えられる高効率性能

### 10年におよぶ販売経験から得た、現地ユーザーの声を反映。

オーストラリアの高度処理クラスである「advanced secondary」を満たす性能を目指すため、フジクリーンの最大の強みである水質の良さにこだわった開発が進められました。さらに、コストを抑えるための工夫や、10年におよぶ販売経験によって得た現地ユーザーや役所、販売代理店、施工やメンテナンスを担当する企業からの改善要望事項もクリアし、新製品を完成させました。試験にあたっては、日本から開発チームが何度も現地に足を運び、困難な試験に挑み、他社に先がけて合格することができました。多くの関係者の努力と協力によって誕生した『FujiClean ACE1200』は、今後さらに、オーストラリアの水環境の改善へ貢献していきます。



上：オーストラリアで設置した浄化槽。中央にあるのはプロボックス  
下：コンパクト設計で配送の負担を軽減

### グローバル事業紹介 Part2



- 2008年 現地法人FujiClean Australiaを設立
- 2011年 クイーンズランド州に現地生産工場
- 2019年 ビクトリア州に現地生産工場
- 2020年11月現在 オーストラリア新基準および6州の認証を取得済み
- FujiClean Australia, a local subsidiary, was established in 2008.
- A local production plant was opened in Queensland in 2011.
- A local production plant was opened in Victoria in 2019.
- As of November 2020, our products have been certified by Australian Standards and in the six states.

2008(平成20)年、フジクリーンは初の海外拠点として、オーストラリアに現地法人フジクリーン・オーストラリア社を設立。設立から1年後にはオーストラリア基準を取得し、販売を開始しました。当初は、製品を日本から輸送して販売を行っていましたが、オーストラリア全土に展開していくにつれ、オーストラリアの環境により適した専用機種が必要だと判断し「CE1500EX」を開発。2010(平成22)年にCE1500EXが高度処理クラス(advanced secondary)の認証を取得すると、その後は着実に売上を伸ばすことができました。現在は、市場からの認知も高まり、フジクリーン製品の強みである、処理後の水質の良さ、軽量・コンパクト、耐久性の高さ、メンテナンスのしやすさ、日本からの技術開発サポート体制など、フジクリーン製品の総合的な価値に信頼性が高まっています。そしてこの度、オーストラリアの新しい浄化槽基準を満たした「FujiClean ACE1200」を開発、販売を開始し、今後もさらに市場を広げていながら、現地の人々に喜ばれる製品を提供していきたいと考えています。

In 2008, FujiClean established FujiClean Australia, a local subsidiary, as our first overseas base. Within the first year from the establishment, our products were certified by Australian Standards, and we commenced sales. Initially, we sold products that had been imported from Japan. As our business expanded throughout Australia, we determined that we needed an exclusive model suitable for the Australian environment, so we developed the "CE1500EX". Once the CE1500EX was certified as an advanced secondary class wastewater treatment system in 2010, solid sales took off. Today, the CE1500EX is widely recognized on the market. Confidence in the overall value of FujiClean has increased, including the strengths of our products: high quality of water after treatment, lightweight and compact size, high durability, easy maintenance, and technical development and support system from Japan. We have newly developed and marketed the "FujiClean ACE1200," which satisfies Australia's new wastewater treatment system standards. We will continue to expand our market while providing customer-satisfying products to the people of Australia.

### 担当者VOICE 中・大型浄化槽 営業担当 ブルック・マルティンセン

フジクリーンシステムは世界で最先端の排水処理システムとして、役所、施工者、および施主から一様に高い注目をいただいています。当社は製品に対する自信と、設置や修理を担当する幅広い販売店網に対する自信をもって、ロードハウ島、デインツリー熱帯雨林、フレーザー島をはじめ、その他多くの環境的な影響を受けやすい場所にフジクリーンシステムを設置してきました。下水道が整備されていない地域における「商業的システム(中・大型浄化槽)」は、トレーラーハウスキャンプ場をはじめ、学校、ガソリンスタンド、ホテルなど、多岐にわたって使用されています。フジクリーンシステムのユーザーが評価する主な利点には、次のようなものがあります。

- コンパクト性：一体型タンク設計により、設置面積の節減が図れる
- 効率性：使用電力が少ない
- 信頼性：内部に可動部品を使用していないので故障が極めて少ない
- 軽量：FRP製のため、輸送・設置費用が安い

Being one of the most advanced Wastewater Treatment Systems in the world, FujiClean Systems are highly regarded by councils, builders & landowners alike. With confidence in our product & vast network of distributors to install & service, FujiClean Systems have been installed in a number of environmentally sensitive locations including Lord Howe Island, Daintree rainforest & Fraser Island plus many more. Use of Commercial Systems in unsewered areas cover a wide variety of applications including but not limited to Caravan Parks, Schools, Petrol Stations, Hotels to name but a few.

Key benefits appreciated by FujiClean Systems users include:

- Compact - all-in-one tank design ensures a small footprint
- Efficient - low power usage
- Reliable - no internal moving parts minimizes breakdowns
- Lightweight - made of FRP lowers transport & installation costs



今年7月にQLD州北部に設置した大型浄化槽  
Commercial Sales Manager  
Mr. Brook Martinsen



メディア

## 日本政府英語サイトや経済産業省Webサイトでフジクリーンが紹介されました

日本政府の英語サイト「Technology」ページ、「Moving Forward - Japan: Innovating the Future」にて、フジクリーンの紹介動画が公開されました。Moving Forwardページでは、グローバルニッチ市場において最先端の日本技術を生み出す企業が紹介されています。

また2020(令和2)年6月、経済産業省は、世界市場のニッチ分野で勝ち抜いている企業や、国際情勢の変化の中でサプライチェーン上の重要性を増している部素材等の事業を有する優良な企業など113社を、2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」として選定。フジクリーンもその一社に選定されました。現在、経済産業省Webサイトでは選定企業の取り組みをまとめた「選定企業集」がアップされています。

ここからCHECK!



日本政府 英語サイト「Moving Forward - Japan: Innovating the Future」より、フジクリーンの紹介動画

お知らせ

## 型式認定番号更新のお知らせ

2020(令和2)年10月1日、CEN型およびPC型の型式認定番号が定期更新(5年)により変更になりました。今後の弊社工場での生産はすべて新番号となりますので、確認申請の際は、更新後の型式認定番号にて申請をお願いいたします。更新後の申請関連書類は、CEN型はフジクリーンのWebサイトから取得いただけます。PC型は、フジクリーンの最寄り事業所へお問い合わせください。

### ■ CEN型(12~50人槽)

名称	型式認定番号		名称	型式認定番号	
	更新前	更新後		更新前	更新後
CEN-12型	5-16-H-005	5-20K-H-005			
CEN-14型	5-16-H-005-1	5-20K-H-005-1			
CEN-18型	5-16-H-005-2	5-20K-H-005-2			
CEN-20型	5-16-H-005-3	5-20K-H-005-3			
CEN-21型	5-16-H-005-4	5-20K-H-005-4			
CENI-25型	5-16-H-006	5-20K-H-006	CENII-25型	5-16-H-006-7	5-20K-H-006-7
CENI-28型	5-16-H-006-1	5-20K-H-006-1	CENII-28型	5-16-H-006-8	5-20K-H-006-8
CENI-30型	5-16-H-006-2	5-20K-H-006-2	CENII-30型	5-16-H-006-9	5-20K-H-006-9
CENI-35型	5-16-H-006-3	5-20K-H-006-3	CENII-35型	5-16-H-006-10	5-20K-H-006-10
CENI-40型	5-16-H-006-4	5-20K-H-006-4	CENII-40型	5-16-H-006-11	5-20K-H-006-11
CENI-45型	5-16-H-006-5	5-20K-H-006-5	CENII-45型	5-16-H-006-12	5-20K-H-006-12
CENI-50型	5-16-H-006-6	5-20K-H-006-6	CENII-50型	5-16-H-006-13	5-20K-H-006-13

### ■ PC型(51~500人槽)

名称	型式認定番号	
	更新前	更新後
PC-51A~500A型	5-16-H-001	5-20K-H-004
PC-51B~500B型	5-16-H-001-1	5-20K-H-004-1
PC-51C~500C型	5-16-H-001-2	5-20K-H-004-2
PC-51D~500D型	5-16-H-001-3	5-20K-H-004-3
PC-51E~500E型	5-16-H-001-4	5-20K-H-004-4

CEN型の更新書類のダウンロードはこちらからどうぞ



Webサービス

## 産業廃水処理の製品情報や納入実績をフジクリーンWebサイトでご覧いただけます。

フジクリーンでは、多様な産業における廃水処理装置を開発から維持管理までワンストップで対応し、お客様の要望に応じたご提案が可能です。フジクリーンのWebサイトでは、これまでの納入実績やフジクリーン独自の製品仕様をご覧いただくことができます。ぜひ、アクセスしてください。

### ◆ 納入実績ページ

特定の業種に特化した「標準ユニット(標準型)」と、さまざまな業種に対応可能な「セミユニット(汎用型)」をご用意しています。それぞれの納入実績を業種ごとに紹介しているため、新規のご導入を具体的にイメージしていただきやすくなっています。



該当する項目をクリック



詳細をダウンロードできます

機種説明ページへ

### ◆ タイプで選ぶ

これまでの導入実績から蓄積したノウハウやFRP製管体製造技術を応用し、「標準ユニット」をご用意しています。フルオーダーと比較するとコストや時間を削減することができる標準ユニットの製品仕様をご覧いただけます。



該当する項目をクリック



もっと  
**motto!**  
広げよう

水環境をきれいに  
する取り組み

(名古屋市)  
一般社団法人  
クリアウォータープロジェクト  
ClearWaterProject



代表理事  
瀬川 貴之さん

## 『ICT×水辺』で環境改善をサポートし、 豊かな水環境を未来の世代に継承したい。

現在スタッフは約20名



4つのITサービスと環境コーディネート事業を展開中  
HP <https://clearwaterproject.info/>



豊田市の岩本川で行った体験イベント

『子供達が目を輝かせて飛び込んでいくような川、海、湖を未来の世代に。』を理念に掲げ、2012（平成24）年に創立したクリアウォータープロジェクト。趣味のサーフィンを通じて、水の気持ち良さや水辺環境の課題に気づいた瀬川さんが、前職で培ったICT（情報通信技術）を活用し、水環境改善につながるサービス事業をスタートさせました。

最初に着手したのは、水辺情報を地図上に登録し、海に流れ込む河川や流域の実態を“見える化”した「AQMAP」。市民や行政、企業団体が環境課題を共有することで、改善を加速化させる仕組みを作成しました。事業はさらに広がり、環境団体の運営を資金調達の面から応援するクラウドファンディングの「カワサポ」や、川での遊び方やスポットを紹介する「川遊びマップ」も地域住民の自発的な環境活動を支援するコミュニティサイトとして注目を集めています。中でもパソコンやスマホから遊漁券（川釣りに必要な許可証）を購入できるWeb販売サー

ビス「つりチケ」は、川の保全・管理に充てられる収入源として漁業協同組合の安定収入をサポートし、釣り客へのルール啓発と利便性に寄与するなど、トップシェアを目指せるポジションにまで利用者数が広がっています。これらICTを活用した事業は社会的にも高い評価を受け、第21回日本水大賞の未来開拓賞、第9回毎日地球未来賞の特別賞を受賞しています。

また、サイト運営の一方で、子どもたちにリアルな自然環境との触れ合いを体感してもらう機会を提供する「環境コーディネート」事業を実施。行政や企業と連携した環境学習や環境再生活動に加え、多彩なイベント企画を運営するなど、フィールドワークにも力を注いでいます。現在スタッフは約20名まで増え、今後はさらに、既存事業の継続はもちろん、河川環境整備に関わる国の連携事業や、世界規模で水環境に貢献できるNPO事業への展開など、活動の幅を広げていきたいと考えています。

美しい水を守る  
**フジクリーン工業株式会社**

本社 名古屋市千種区今池四丁目1番4号 〒464-0850 TEL(052)733-0325 <https://www.fujiclean.co.jp>

札幌支店 (011)738-5075	茨城営業所 (029)839-2271	岐阜営業所 (058)274-1011	佐賀営業所 (0952)31-9151
東北支店 (022)212-3339	宇都宮営業所 (028)625-4650	静岡営業所 (054)286-4145	熊本営業所 (096)388-3571
東京支店 (03)3288-4511	群馬営業所 (027)327-5611	四日市営業所 (059)350-0788	大分営業所 (097)558-5135
名古屋支店 (052)733-0250	埼玉営業所 (048)620-1424	和歌山営業所 (073)422-3634	宮崎営業所 (0985)32-3064
大阪支店 (06)6396-6166	千葉営業所 (043)206-5171	広島営業所 (082)843-3315	鹿児島営業所 (099)257-3501
福岡支店 (092)441-0222	新潟営業所 (025)271-8668	高松営業所 (087)869-8680	沖縄営業所 (098)862-9533
盛岡営業所 (019)604-2527	山梨営業所 (055)275-9300	松山営業所 (089)967-6123	
郡山営業所 (024)937-0800	松本営業所 (0263)27-2080	高知営業所 (088)803-1520	



発行 2021年1月1日  
フジクリーン工業株式会社「水の話」編集室